

「永代経法要」お勤め致しました。

午前と午後の法要で、約八十名の皆様方にお参りいただきました。食事の数が足りなくなるのではとヒヤヒヤ致しました。が、過不足なしでスッキリ気分でした。「法話」は、荒山淳さん。身近な問題を親鸞さんや釈迦様の言葉に聞き尋ねながらやさしくお話して頂けました。紙芝居も好評でした。十一月十三日の「報恩講」は甥御さんの荒山優さんに法話をお願いしております。



たくさんのお参り
感謝御礼



孟蘭盆会法要
も例年通りお勤めします。

「お盆をつとめる意味」

「餓鬼どもが 餓鬼に施こす うら盆会（ぼんえ）」

これは暁烏敏（あけがらす・はや）先生の句です。お盆に施餓鬼をして先祖供養をしたり、常にはあまり気にもしていないお墓に参る。一見美しい札・供養の姿の奥にもごめく醜悪な人間の心情を、ギョロリと見つめられた暁烏先生の心眼に「餓鬼ども」の影が映ったのでしよう。

「常に飢えたるもの」が餓鬼だと親鸞聖人は言われます。満足感がなく、欲心に追い回され、名利（みよぶり）に動く心情は餓鬼そのものです。先祖を諸仏（しよぶつ）としてお敬いすることは尊いことです。しかし、先祖を餓鬼として供養したり、たたりを恐れて、慰霊をしたり、あの世から都合よく守ってもらおうと思う根性こそが、自分の欲心、名利心を満たし守ってもらおうとする餓鬼の姿であり、これほど先祖を侮辱することはありません。お盆は、あらためて先祖・亡き人の声なき声に耳を傾け、我が身のありかたに目覚める聞法のご縁です。浄恩寺でも孟蘭盆会法要を勤めますのでお参り下さい。

住職

お盆（孟蘭盆会）のお勤め

一・「初盆の法要」

昨年のお盆以降にお亡くなりなられた方々の法要

・ご希望される方のご自宅、お寺にて勤めます。

・期間 ①七月八日(土) ～ 十七日(月) 海の日

②八月一日(月) ～ 十七日(木)

二・「初盆以外の法要」 合同法要

初盆の方もお越し頂いてけっこうです。

・八月十三日(日)と十四日(月)の左記の時間に
浄恩寺本堂で勤めます。

・時間

- ① 午前九時法要開始(受付 八時三十分開始)
 - ② 午前十時三十分法要開始(受付 十時開始)
 - ③ 午後一時三十分法要開始(受付 一時開始)
- 注意 十三日は、③午後法要はありません。



